

は作付面積が増加し3,590 haとなっている。減少の著しいのはれんげと言われている。北陸における畜産振興をすすめるため、土地改良長期計画をたて草地開発可能面積を約2万2,000 ha、草資源利用面積7,000 haと見込んで飼料作の推進を図りつつあるが、ここで問題は、冬の高雪による草地の損失と同時に夏における草地の夏枯れ発生対策である。この中で高雪対策を中心に論議されたのであるが、その論旨はつぎの通りであった。

1 積雪量は海岸地帯に少なく山間部に多い。山間部では最高積雪深4~5 m、根雪期間140日に及ぶところもある。

2 イタリアンライグラスでは根雪日数が80~90日以上になると雪腐被害度が50%以上になり、翌春の収量への影響が大きくなる。また、根雪時期の早晚によって雪害程度が異なる。

3 雪害は雪腐病による雪害とその他の雪害とに分けられるが、一般にいう雪害は前者をさす。その原因は積雪下における作物の衰弱とこれを犯す雪腐病菌とである。

4 イタリアンの播種期が8月25日のときは雪害が少なく、9月30日~11月9日播きでは雪害が多い。さらにおそい11月25日播きでは雪害が少ない。

5 イタリアンの品種による差が明らかである。マンモスイタリアンAと新潟系とでは雪腐病抵抗性はほぼ同程度であるが、広義の耐雪性ではマンモスが最も耐雪性

がある。コモン、ワセヒカリ、鳥取系は耐雪性に乏しく、オオバヒカリもやや弱い。4倍体イタリアン系、ショートローテーションライ(Hワンラン)が前記マンモスとともに強い。

6 雪腐病は3種あり、雪腐褐色小粒菌核病は多雪地帯に広く分布し、紅色雪腐病は北海道から東北、北陸地方に、褐色雪腐病(菌核を生じない)は東北南部から北陸山陰地方に多く発生する。

7 今後の対策

適期の播種(おそまきを避ける)

耐雪性品種を利用する。

播種量を10a当たり3~4kgとする。

不耕起播種とする。

窒素施肥の過多を避ける。

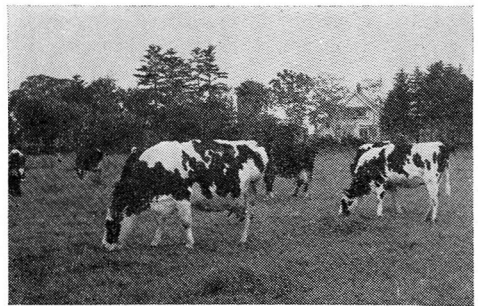
根雪1ヵ月以上前に秋の最後の刈り取りを終える。

以上がイタリアンライグラスを中心とした高雪対策の論議であった。その他水田地帯における飼料作物として、草種としては雪害、夏枯れのいずれにも耐えるものとして、シロクロパー特にニュージーランドホワイト、リードキャナリーグラス、トールフェスクがあげられ、冬のイタリアンに対する夏の一年作としてローズグラス、ソルゴー、スーダングラスが、現在専ら利用されているともろこしに代わるものとして着目されていることが話題となった。

乳牛日本一をきそう

全国約180万頭の乳牛の中から5年に1度そのチャンピオンを決める第5回全日本ホルスタイン共進会が去る11月20日から5日間、愛知県豊橋市内豊橋公園21万平方mの広さを最大限に生かして開催された。昭和26年平塚市を第1回として、以来静岡市、松本市、福島市と歴史を重ね、今回は和歌山、奈良を除く全国都道府県の第1次審査にパスした優秀牛298頭が横綱を目指して参加し、最終日には名誉総裁の秩父宮妃殿下が表彰式にご臨席され盛会のうちに終了した。これは乳牛の改良と酪農振興を狙いとした酪農の祭典ともいうべきもので、この機会に乳牛の改良の方向が実物をもって示される絶好の場として注目されている。

今回より新しく消費者をも対象とした乳製品や酪農技術展、酪農資材展も併開され一般市民にも興味深いもので開期中参観者は延べ50万を越えたと言われる。弊社もこの企画に賛同し主催者並びに後援団体、協賛団体のご指導でこの酪農資材展に出展した。総合農政下に於ける畜産経営は米作生産調整を含む施策から考えあわせると将来ますますその基幹となるべきものでしょう。しかし飼料の大部分は輸入に依存しており海外飼料原料の相い次ぐ高騰、稲ワラBHC問題、米作



転換用飼料作物等昨今の情勢を考慮に入れて『相談所』を設け基本的には上手なえさの与え方についてのテーマで参観者に紹介いたしました。手ずまなことと開期中の混雑のため時間的余裕がなく不行届きありました点この紙面をお借りし深くお詫び申し上げますとともに、今後牧草飼料作物並びに配合飼料等この種のご質問がございました折にはどうぞどしどし弊社までご相談下さい。

最後にこの共進会の運営にあられた主催者並びに関係各方面のご労苦のご指導に対し厚くお礼申し上げます。
(東京支店 藪内悟)